2
エリシヤ
聖徒伝 126

「信じて主を仰ぎ見よう」

列王記第二　5章　　ナアマン将軍の癒し

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

Ⅰ. アラムの将軍ナアマン　5章1～5節

Ⅱ. 癒やしの奇跡　5章6～14節

Ⅲ. ナアマンの要望　5章15～19節

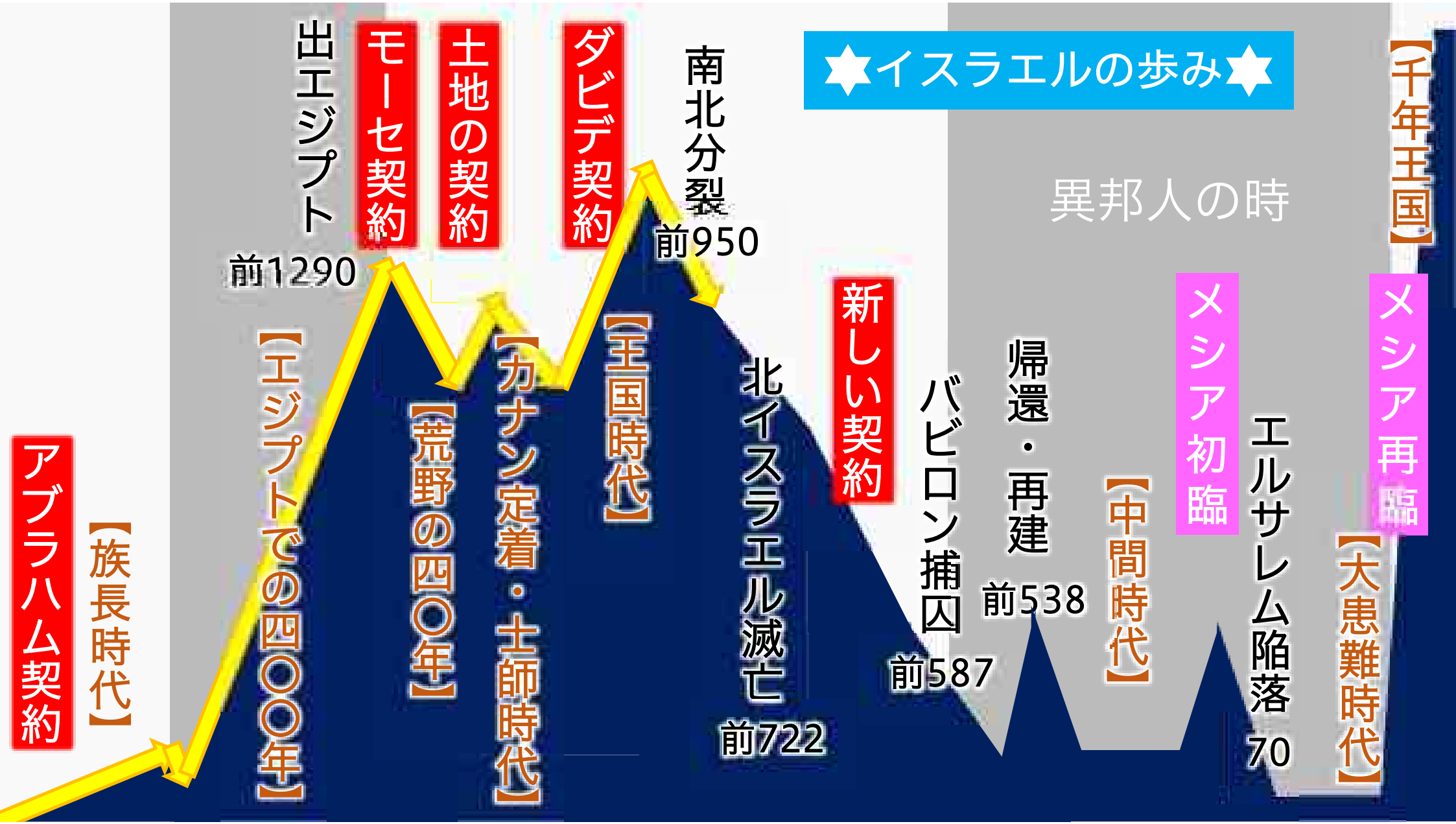
Ⅳ. 愚かな従者ゲハジ　5章20～27節

Ⅴ. まとめと適用

メシアの王国の幻を抱こう

旧アラム・現在のダマスコ

【無垢の時代】
天地創造
【良心の時代】
堕罪
~大洪水
【人類統治の時代】
バベルの塔事件
【約束の時代】
アブラハム
～ヤコブ
【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨
【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨
【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地
①エデン契約
②アダム契約
③ノア契約
④アブラハム契約
⑤モーセ契約
⑥土地の契約
⑦ダビデ契約
⑧新しい契約
どの時代も
神の約束が礎にある
過　去
現　在
未　来


イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
出エジプト
前1290
モーセ契約
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

列王記（第一～第二）

第一	1～11章	**ソロモン**王の治世 神殿建築	イスラエル（統一王国）
第一	12～16章	**王国の分裂**	
第一	17～22章	預言者**エリヤ** （アハブ王の生涯）	
第二	1～2章		
第二	2～13章	預言者**エリシャ**	
第二	14～17章	**二つの王国**の歴史 北王国滅亡まで	
第二	18～25章	**ユダ王国**の歴史 滅亡まで	

ユダ（南王国）

レハブアム
アビヤム
アサ
ヨシャパテ
ヨラム
アハズヤ
アタルヤ
ヨアシュ
アマツヤ
ウジヤ
ヨタム
アハズ
ヒゼキヤ
マナセ
アモン
ヨシヤ
エホアハズ
エホヤキム
エホヤキン
ゼデキヤ

オバデヤ
ヨエル
イザヤ
ミカ
エレミヤ
エゼキエル

イスラエル（北王国）

ヤロブアム…ナダブ
バアシャ…エラ
ジムリ
オムリ…オムリ…**アハブ**
…アハズヤ…ヨラム
エフー…エホアハズ
…ヨアシュ
…ヤロブアムⅡ
…ゼカリヤ
シャルム　メナヘム
ペカフヤ　ペカ
ホセア

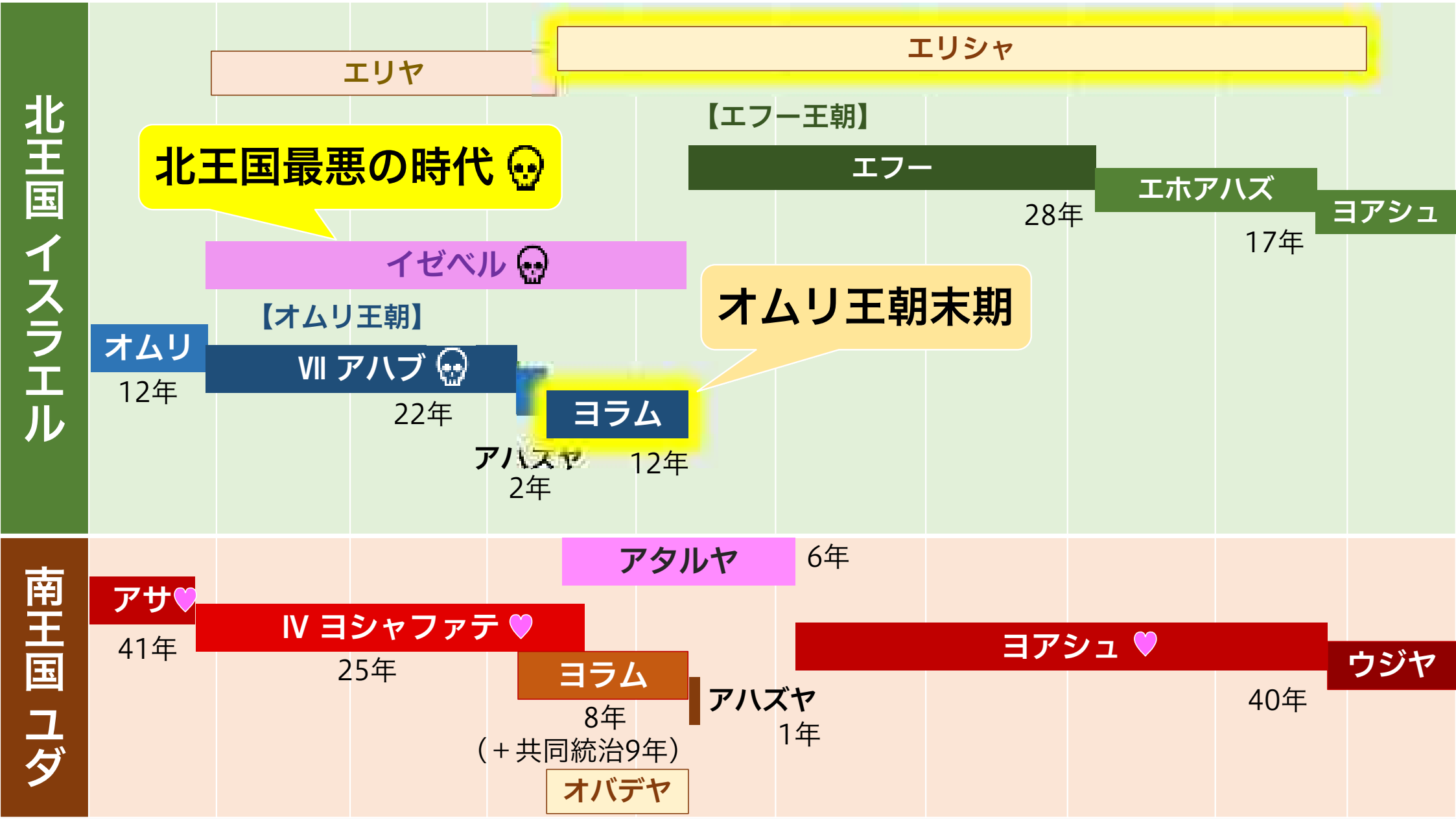
エリヤ
エリシャ
アモス
ヨナ
ホセア

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王

	ユダ（南王国）	南の預言者たち	北の預言者たち	イスラエル（北王国）
BC933	レハブアム アビヤム アサ			★ヤロブアム…ナダブ
	ヨシャパテ ヨラム	オバデヤ	エリヤ エリシャ	★バアシャ…エラ ★ジムリ　★オムリ …アハブ　…アハズヤ …ヨラム
BC850	アハズヤ　アタルヤ			
	ヨアシュ アマツヤ	ヨエル		★エフー …エホアハズ …ヨアシュ
BC800	ウジヤ（アザルヤ） ヨタム アハズ	イザヤ ミカ	アモス ヨナ ホセア	…ヤロブアムⅡ …ゼカリヤ　★シャルム ★メナヘム　…ベカフヤ ★ベカ
BC700	ヒゼキヤ			★ホセア
BC722	マナセ アモン	ナホム		アッシリア捕囚　BC722
	ヨシヤ	ゼパニヤ　エレミヤ　ハバクク		
BC600	エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	エゼキエル		

★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う**善王は8人**


北王国 イスラエル
エリヤ
エリシャ
【エフー王朝】
北王国最悪の時代
エフー
28年
エホアハズ
ヨアシュ
17年
イゼベル
オムリ王朝末期
【オムリ王朝】
オムリ
12年
Ⅶ アハブ
22年
ヨラム
12年
アハズヤ
2年
南王国 ユダ
アタルヤ
6年
アサ
41年
Ⅳ ヨシャファテ
25年
ヨアシュ
40年
ウジヤ
ヨラム
8年
（＋共同統治9年）
アハズヤ
1年
オバデヤ

【エリヤとエリシャ】 II 列王記

- 孤独な戦いの末、危機に陥ったエリヤを主は励まし、イスラエルの残れる信仰者の存在を教え、後継者に**エリシャ**を指名した。

- エリヤが組織した預言者学校で**エリシャ**も学んだ。**エリシャ**は、エリヤの携挙を目撃し、その後、エリヤの正当な後継者となった。

- 混迷を増す北王国で、預言者**エリシャ**を通し、主の働きが推し進められていく。

Ⅰ．アラムのナアマン将軍　　列王記第二 5章1～5節

【将軍ナアマン】 II 列王記5:1

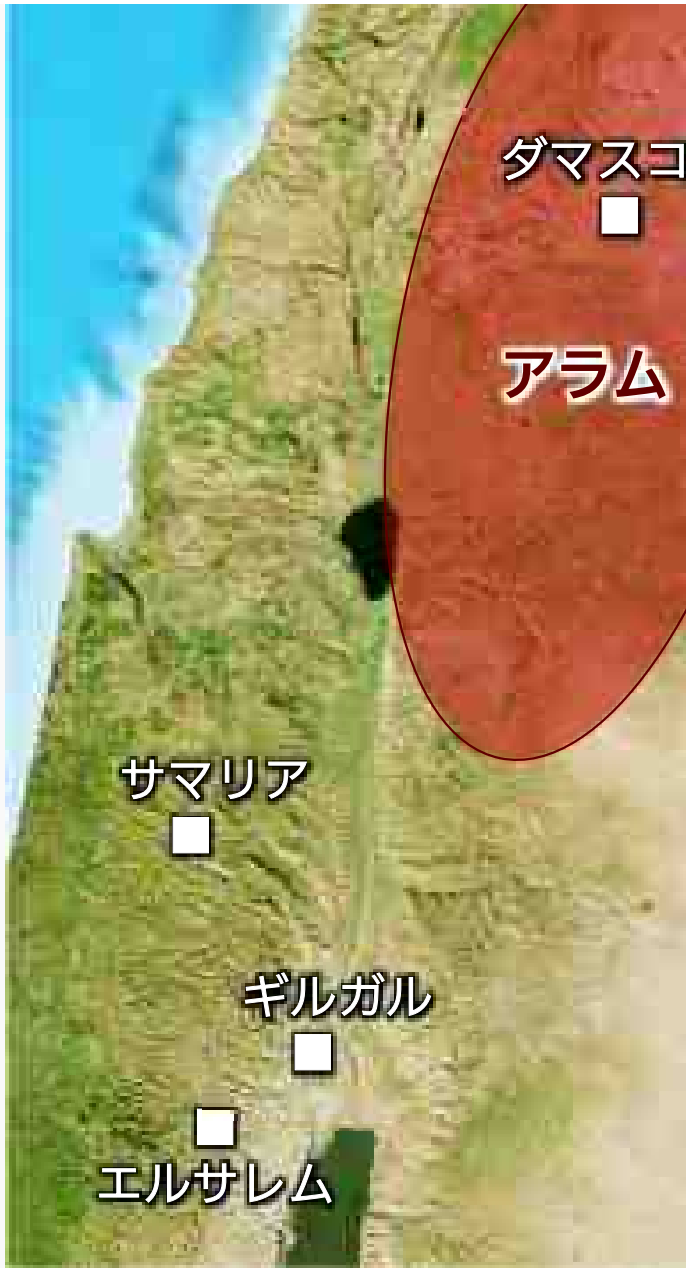
アラム*の王の軍の長ナアマン*は、その主君に重んじられ、尊敬されていた。それは、【主】が以前に、彼を通してアラムに勝利を与えられた*からであった。この人は勇士であったが、ツァラアト*に冒されていた。

＊北王国を何度も侵略した北の大国

＊“好ましい、よろこび”

＊主を知っていた？　北王国支配時代の影響？

＊重い皮膚病。不治の病。律法では、けがれ。



【イスラエルの娘】 II 列王記5:2～3

アラムはかつて略奪に出たとき、イスラエルの地から一人の若い娘を捕らえて来ていた。彼女はナアマンの妻に仕えていた。

彼女は女主人に言った*。「もし、ご主人様がサマリアにいる預言者*のところに行かれたら、きっと、その方がご主人様のツァラアトを治してくださるでしょう。」

＊奴隷の待遇の良さ、主人の人格がうかがえる。

＊エリシャを以前から知っていたのだろう。

＊娘は信仰者であり、主に示されたのだろう。

【出発】 Ⅱ列王記5:4～5

そこで、ナアマンはその主君のところに行き、イスラエルの地から来た娘がこれこれのことを言いました*、と告げた。

アラムの王は言った。「行って来なさい。私がイスラエルの王に宛てて手紙を送ろう*。」そこで、ナアマンは、銀十タラント(340kg)と金六千シェケル(68kg)と晴れ着十着を持って出かけた。

＊女性が証人になれない時代に、女奴隷から聞いたと言うのも、認めるのも極めて異例。

＊部下に対する異例の態度。信頼の深さの表れ。

Ⅱ．癒やしの奇跡　　列王記第二 5章6～14節

ヨルダン川

【アラム王の手紙】 II 列王記5:6

彼はイスラエルの王宛ての次のような手紙を持って行った。「この手紙があなたに届きましたら、家臣のナアマンをあなたのところに送りましたので、彼のツァラアトを治してくださいますように。」

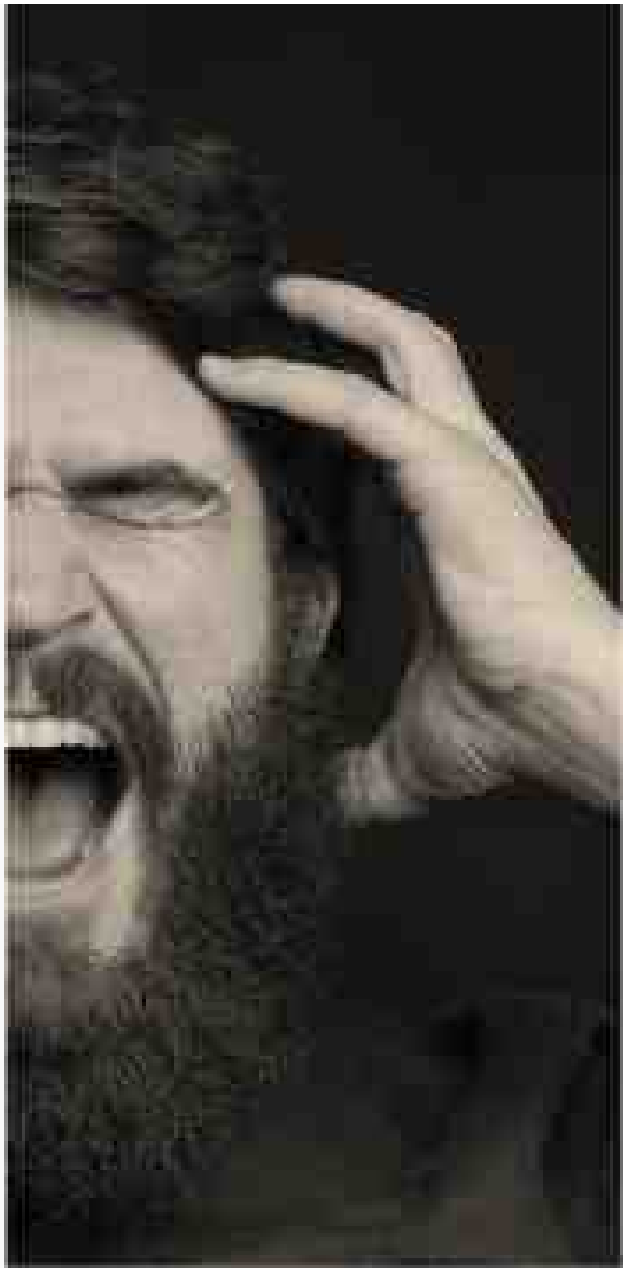
■この時代のアラムの王は、ベン・ハダド2世。
アハブ王時代に北王国に侵略するが敗退。
以降、北王国とは比較的良好な関係があった。
➡アラムは連邦国家。
地域的には、個々の王が争いや略奪も。

【ヨラム王の嘆き】　II 列王記5:7

イスラエルの王はこの手紙を読むと、自分の衣を引き裂いて言った。「私は殺したり、生かしたりすることのできる神であろうか。この人はこの男を送って、ツァラアトを治せと言う。しかし、考えてみよ。彼は私に言いがかりをつけようとしている*のだ。」

＊侵略の口実に無理難題を吹っかけたと理解。

■ナアマンから話を聞いても、神の人エリシャに思いが至らなかった？　➡不信仰な王の姿



【エリシャの申し出】 Ⅱ列王記5:8～9

神の人エリシャは、イスラエルの王が衣を引き裂いたことを聞くと、王のもとに人を遣わして言った。「あなたはどうして衣を引き裂いたりなさるのですか。その男を私のところによこしてください。そうすれば、彼はイスラエルに預言者がいることを知る*でしょう。」

- ギルガルのエリシャの耳にも届いた。
  王が治療法を求めて布告を出したか？
- 王は、申し出を渋々承知しただろう。

＊すなわち、預言者を遣わした**真の神**を知る!!

将軍は賓客として
長期滞在中だったろう

キリスト者を知る
＝キリストを知る!!

【エリシャのもとへ】 Ⅱ列王記5:9～10

こうして、ナアマンは馬と戦車でやって来て*、エリシャの家の入り口に立った。エリシャは、彼に使者を遣わして言った*。

「ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。そうすれば、あなたのからだは元どおりになって、きよくなります。」

＊多くの護衛を引き連れていたナアマン。

＊直接会わず、伝令をよこしただけ。

【激怒するナアマン】 Ⅱ列王記5:11～12

しかしナアマンは激怒して去り、そして言った。「何ということだ。私は、彼がきっと出て来て立ち、彼の神、【主】の名を呼んで、この患部の上で手を動かし、ツァラアトに冒されたこの者を治してくれると思っていた。

ダマスコの川、アマナやパルパルは、イスラエルのすべての川にまさっているではないか。これらの川で身を洗って、私がきよくなれないというのか。」こうして、彼は憤って帰途についた。

■神の業を妨げるのは、人の期待とプライド

【しもべたちの進言】 Ⅱ列王記5:13

そのとき、彼のしもべたちが近づいて彼に言った*。「わが父よ。難しいことを、あの預言者があなたに命じたのでしたら*、あなたはきっとそれをなさったのではありませんか。あの人は『身を洗ってきよくなりなさい』と言っただけではありませんか。」

＊しもべたちからも信頼のあるナアマン。
　平素から聞く耳のある主人だったのだろう。
＊シンプル過ぎて人には従い難いのが、
　聖書が求める信仰。

【癒やしの奇跡】 Ⅱ列王記5:14

そこで、ナアマンは下って行き、神の人が言ったとおりに*、ヨルダン川に七回身を浸した*。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。

＊忠実にエリシャに従ったナアマン

＊7は完全数。完全に主に従ったナアマン。

■主の奇跡・癒やしに再現性はない。
　形だけ、行為だけ真似しても無意味。
　主に従った、その信仰に意味がある。

III. ナアマン将軍の要望　列王記第二 5章15～19節

【引き返してきたナアマン】 II 列王記5:15

ナアマンはその一行の者すべてを連れて神の人のところに引き返して来て、彼の前に立って言った*。「私は今、イスラエルのほか、全世界のどこにも神はおられない*ことを知りました。どうか今、あなたのしもべからの贈り物を受け取ってください。」

＊主のしもべとして、預言者エリシャの前に。

＊当時の異邦人にはこれ以上ない主への信仰告白。

【固辞するエリシャ】 II 列王記5:16

神の人は言った。「私が仕えている【主】は生きておられます*。私は決して受け取りません。」ナアマンは、受け取らせようとしてしきりに勧めたが、神の人は断った。

＊“主にかけて”、受け取らないということ。

➡受け取ってはならないと主が命じられた。

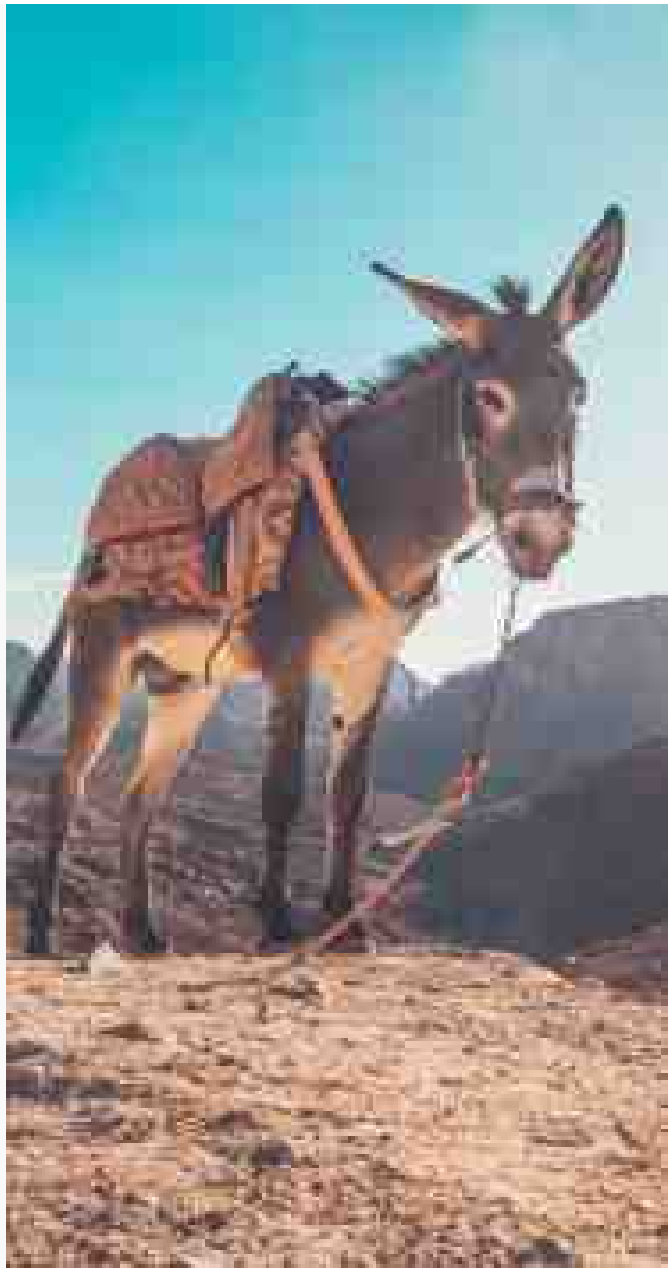
【ナアマンの求め】 II 列王記5:17

そこでナアマンは言った。「それなら、どうか二頭のらばに載せるだけの土*をしもべに与えてください。しもべはこれからはもう、【主】以外のほかの神々に全焼のささげ物やいけにえを献げません*。」

＊その土でヤハウェの祭壇を築くということか。

➡地域の神々と土地は強く結びついていた。

＊信仰上、何より重要なのは、この決意!!



【ナアマンの懇願】 II 列王記5:18

「どうか、【主】が次のことについてしもべをお赦しくださいますように。私の主君がリンモンの神殿に入って、そこでひれ伏すために私の手を頼みにします*。それで私もリンモンの神殿でひれ伏します。私がリンモンの神殿でひれ伏すとき、どうか、【主】がこのことについてしもべをお赦しくださいますように。」

＊高齢のアラム王の介助をしたということか。

■主君である王の命令は絶対。

【エリシャの言葉】 II 列王記5:19

エリシャは彼に言った。「**安心して***行きなさい*。」そこでナアマンは彼から離れ、かなりの道のりを進んで行った。

＊“シャローム” “Go in peace”

➡“平和の内に行きなさい”

＊旅の無事を祈る一般的な挨拶（士18:6,ヤコブ2:16）

＊信仰と結びついて印象的に用いられている例↓

イテロからモーセ。サムエルからハンナ。

イエスから長血を癒された女。

Ⅳ．愚かな従者ゲハジ　　列王記第二 5章20～27節

【ゲハジの考え】 II 列王記5:20

そのとき、神の人エリシャに仕える若者ゲハジはこう考えた。「何としたことか。私の主人は、あのアラム人ナアマンが持って来た物を受け取ろうとはしなかった。【主】は生きておられる*。私は彼の後を追いかけて、絶対に何かをもらって来よう。」

＊自分の思いを正当化するための濫用。

➡略奪者アラムの将軍に見返りをもらうのは、当然のことだと考え、即断即行!!

【ゲハジの嘘】 II 列王記5:21～22

ゲハジはナアマンの後を追いかけて行った。ナアマンは、うしろから駆けて来る者を見つけると、戦車から降りて彼を迎え、「何か変わったことでも」と尋ねた。

そこで、ゲハジは言った。「変わったことはありませんが、私の主人は私を送り出してこう言っています。『たった今、エフライムの山地から、預言者の仲間の二人の若者が私のところにやって来たので、どうか、銀一タラントと晴れ着二着を彼らに与えてやってください*。』」

＊相手をすんなり納得させられる巧みな嘘。

【ナアマンの贈り物】 Ⅱ列王記5:23～24

するとナアマンは、「ぜひ、二タラント*を取ってください」と言ってしきりに勧め、二つの袋に入れた銀二タラント(68kg)*と、晴れ着二着を自分の二人の若者に渡した。そこで彼らはそれを背負ってゲハジの先に立って進んだ。

ゲハジは丘に着くと、それを二人の者から受け取って家の中にしまい込み、彼らを帰らせたので、彼らは去って行った。

＊倍を申し出た将軍。ゲハジは織り込み済みか。

＊オムリ王はサマリアの山を２タラントで購入。

【ゲハジの弁解】 II 列王記5:25～26

彼が家に入って主人の前に立つと、エリシャは彼に言った。「ゲハジ。おまえはどこへ行って来たのか。」彼は答えた。「しもべはどこへも行っていません。」

エリシャは彼に言った。「あの人がおまえを迎えに戦車から降りたとき、私の心はおまえと一緒に歩んでいたではないか。今は金を受け、衣服を受け、オリーブ油やぶどう畑、羊や牛、男女の奴隷を受ける時だろうか*。」

＊ゲハジが心に思い描いていた欲望そのもの。

【呪われたゲハジ】 II 列王記5:27

「ナアマンのツァラアトは、いつまでもおまえとおまえの子孫にまといつく。」ゲハジはツァラアトに冒され、雪のようになって、エリシャの前から去って行った。

- ナアマンの病は、イスラエル略奪の呪いか？
- アブラハム契約の付帯条項
  “イスラエルを祝福する者は祝福され、
  呪う者は呪われる。創世記12:3”
- 呪いは、主の意志を偽ったゲハジの上に!!
  （※呪いとは、神の祝福を失った状態）

Ⅴ．まとめと適用　シンプルな信仰に立ち続けよう

アーモンドの花咲く、後の雨の頃のイスラエル

【ナアマン将軍の信仰に学ぶ】

■主による勝利を経験していたナアマンは、謙遜な指導者だった。
イスラエルの女奴隷の言葉を信頼し、真実の預言者を求めた。

■エリシャの態度と言葉に激怒したが、
悔い改めて部下の忠告に従った。

■主の命令通り、ヨルダン川に七回身を浸し、完全に癒やされた。
ナアマンの主への信仰が、ナアマンを癒やした。

ただ主に従い、主が成し遂げられた。信仰者の証しはシンプル

【“安心して行きなさい”とは？】

■長血を癒やされた女への主イエスの言葉でもある。

「ルカ 8:48 イエスは彼女に言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。**安心して行きなさい。**』」

■“Go in peace”　旅の無事を祈る挨拶（士18:6,ヤコブ2:16）だが、信仰者への呼びかけの際には、それ以上に強く印象に残る。

■信仰の歩みには、試練があり、様々な思いわずらいもまといつく。それでも、“平安の内に行きなさい”と主は命じられている。日々、主に聴き従えば、何事にもわずらわされることはないと。

【ゲハジの過ち・イスラエルの罪】

■自分の欲望を満たすため、主の御名を利用したゲハジは、
神の呪いを受け、けがれを受け、流浪の民となった。
ゲハジ(“幻の谷”)という名前の通りに…。

■イスラエルもまた、重ねた主の背きのゆえ、約束の地を追われる。

■南王国の滅亡に直面した預言者エゼキエルは、幻を見た。
谷に満ちた枯れた骨(イスラエル)が、死からよみがえる幻に、
ゲハジ(“幻の谷”)の名が、重なる。

エゼキエル書　37章1～14節

南王国ユダの滅亡、バビロン捕囚に直面した
預言者エゼキエルの見た
イスラエルの滅びと回復の幻

エゼキエル書　37:1～2

【主】の御手が私の上にあった。
私は【主】の霊によって連れ出され、平地の真ん中に置かれた。
そこには骨が満ちていた。
主は私にその周囲をくまなく行き巡らせた。
見よ、その平地には非常に多くの骨があった。
しかも見よ、それらはすっかり干からびていた。

エゼキエル書　37:3～4

主は私に言われた。
「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるだろうか。」
私は答えた。「【神】、主よ、あなたがよくご存じです。」
主は私に言われた。
「これらの骨に預言せよ。
『干からびた骨よ、【主】のことばを聞け。』

エゼキエル書　37:5～6

【神】である主はこれらの骨にこう言う。
見よ。わたしがおまえたちに息を吹き入れるので、
おまえたちは生き返る。
わたしはおまえたちに筋をつけ、肉を生じさせ、
皮膚でおおい、おまえたちのうちに息を与え、
おまえたちは生き返る。
そのときおまえたちは、わたしが【主】であることを知る。』」

エゼキエル書　37:7～8

私は命じられたように預言した。
私が預言していると、なんと、ガラガラと音がして、
骨と骨とが互いにつながった。
私が見ていると、なんと、その上に筋がつき、
肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。
しかし、その中に息はなかった。

エゼキエル書　37:9～10

そのとき、主は言われた。
「息に預言せよ。人の子よ、預言してその息に言え。
『【神】である主はこう言われる。息よ、四方から吹いて来い。
この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。』」
私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中に入った。
そして彼らは生き返り、自分の足で立った。
非常に大きな集団であった。

エゼキエル書　37:11～12

主は私に言われた。
「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。
見よ、彼らは言っている。『私たちの骨は干からび、
望みは消え失せ、私たちは断ち切られた』と。
それゆえ、預言して彼らに言え。
『【神】である主はこう言われる。わたしの民よ、見よ。
わたしはあなたがたの墓を開き、
あなたがたをその墓から引き上げて、
イスラエルの地に連れて行く。

エゼキエル書　37:13〜14

わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、
あなたがたを墓から引き上げるとき、
あなたがたは、わたしが【主】であることを知る。
また、わたしがあなたがたのうちにわたしの霊を入れると、
あなたがたは生き返る。
わたしはあなたがたを、あなたがたの地に住まわせる。
このとき、あなたがたは、【主】であるわたしが語り、
これを成し遂げたことを知る――【主】のことば。』」

【預言者に示された幻、イスラエルの希望】

■今はその時ではないと言ったエリシャ。
しかし主の時は必ずやってくる。

■神のタイムスケジュールは、神の民を中心に進む。
不信仰に陥ったイスラエルの主への悔い改めと回復を覚えて祈ろう。

■異邦の地のただ中に、ナアマンが遣わされたように、この地で、
主イエスを証しし、福音宣教の使命を果たして行こう。

主イエス・キリストは、私の罪のため、あなたの罪のため
十字架にかけられ、死んで葬られた。
しかし、死を打ち破って栄光の姿で復活された。

救われるべきすべての魂が救われるまで、福音を告げ知らせる。
それが、この時代のすべての信者の使命。

世の終わりの裁き・大患難時代の最後、
神の民イスラエルは悔い改め、主イエスは王の王として再臨される。

世にあって、私たち、すべてのキリスト者は寄留者だ。
戦いも試練も絶えることはない。
不安が絶えず、私たちを脅かす。

主の約束に堅く立ち、日々を歩もう。
「安心して行きなさい」と、主は言われる。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」
主イエスの約束の平安の内に、今日の一歩を踏みしめよう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信じます。
世はますます混沌(こんとん) とし、破滅(はめつ)が迫(せま)ります。
わたしの日々にも、不安(ふあん)が絶(た)えることはありません。
それでもなお、主よ、あなたが命(めい)じられた通(とお)り、
福音宣教(ふくいんせんきょう)の使命(しめい)に歩(あゆ)みます。
どうか、主の平安(へいあん)のうちに行かせてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」